



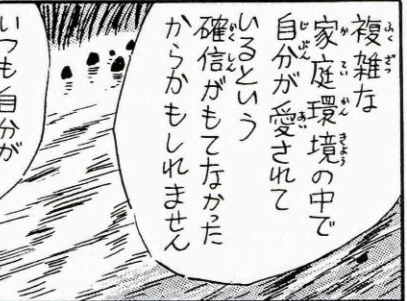
ばかたれ
が!!



おまえの
ような奴は
こうして
くれる!!



祖父は
日本刀を
さやごと
打ち下しました



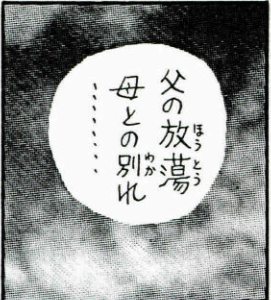
複雑な
家庭環境の中で
自分が愛されて
いるという
確信がもてなかつた
からかもしれませぬ



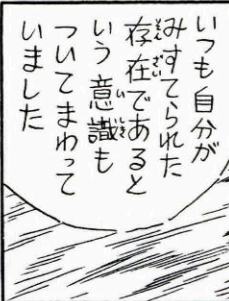
欲しいなら
欲しいと
なせ言わん
!!
どうして
買ってくれと
言わん!!



その言葉が
口に出せませぬ
でした
甘えるとか
頼みごとが
極度に
いやでした



父の放蕩
母との別れ
……



いつも自分が
みずでうれた
存在である
という意識も
ついてまわって
いました



泰男にとって
ただ絵を描く
ことだけが
救いになって
いたのでした



先生



やあ
香月
先生
絵を
描きに
行かれるん
ですか?



ああ
ついて
くるかい
はい

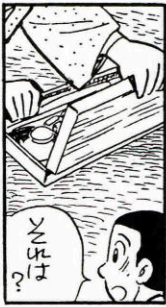


絵の好きな
先生は
休みの日に
景色の
よい所に出かけて
写生をして
いました

泰男は
よこれに
よくついて行き
あきもせず
ながめて
いるのでした



今日は
ここで
描こう



それは



香月は
油絵具を
みるのは
初めのか
?
油絵具
油絵具



先生は
油絵も
描くんですか?
すげえ……
ははは



油絵具は
独特の
匂いが
しました



先生の絵は
たいして
うまくな
ない……



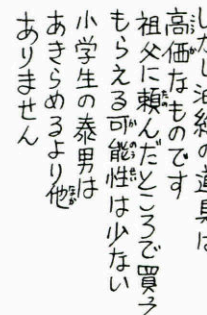
でも
油絵は
魅かた!



家に帰って
水彩絵具で
描いた絵を
とりだして
みた
油絵に
くらべたら
薄っぺらだ



それに
あの匂い
まだ俺の
鼻に残る
……
ああ……
油絵具が
欲しいなあ



しかし油絵の道具は
高価なものです
祖父に頼んだところを買
もらえる可能性は少ない
小学生の泰男は
あきらめるより他
ありません

〈以下次号〉